

BetaJet

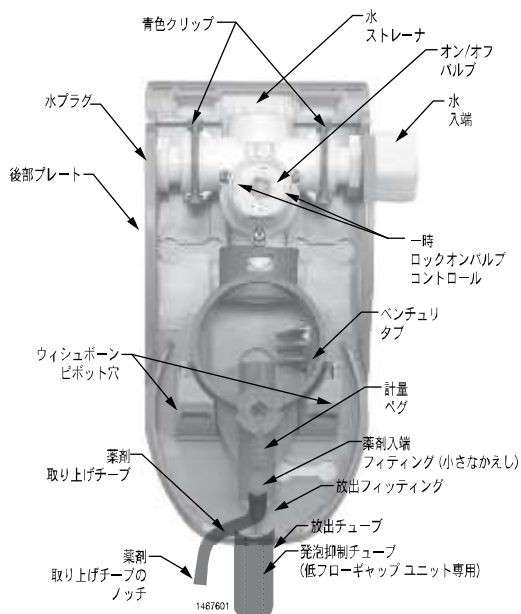
インストールとメンテナンス、トラブルシューティング



手袋、眼の保護などの安全性衣類は、インストールを実行する前に着用する必要があります。は、製品安全データシート（MSDS）に具体的なアドバイスを観察。



インストール



水の要件

エアギャップ

H₂O = 1.0 - 5.5 bar

H₂O = 14 - 28 psi

H₂O ≤ 65°C

R-ギャップ

H₂O = 2.0 - 5.5 bar

H₂O = 28 - 78 psi

H₂O ≤ 65°C

1. カバーを取り外す

- 金属製 C-クリップをユニットに完全に押し込みます。
- カバーを持ち上げます。
- カバーを交換するときはいつでも、最初にC-クリップを取り外します。常に注意して上部のヒンジを一致させ、カバーを下げる前に付けます。

を一致させ、カバーを下げる前に付けます。



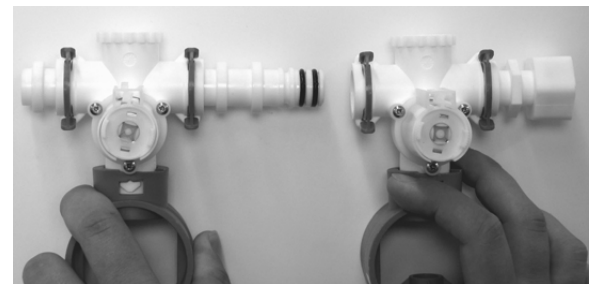
2. ユニットを取り付ける

BetaJet から薬剤までの最大高さ：1.5 m (5 フィート)。水平距離は多少長くても構いません。

A. 数台のBetaJet

をインストールする場合は、まずそれらを連結します。1 台をインストールする場合はステップBに進みます。

- ベンチュリタブをつまんで押し、それぞれのプロポーションを後部プレートから外して持ち上げます。
- 後部プレートを平らな面に並べます。
- 青色のクリップをわずかに引き出します。
- インターコネクト (1202026) を使い、隣接するユニットの水プラグと水流入端フィティングを取り外し、ユニットを連結します。



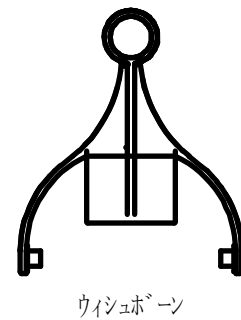
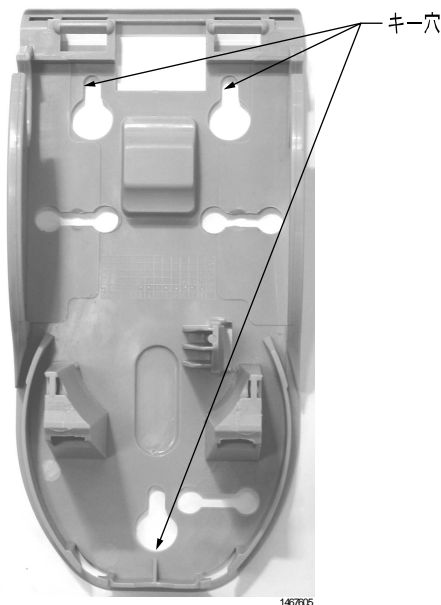
- ユニットをしっかり押し、青色のクリップがフィットして元に戻ることを確認します。
- 連結された BetaJet を後部プレートに同時に取り付け、全体を使い、ユニッ

ト間の空間と正確に同じ間隔で壁に印しを付けます。



数台のユニットを同時に使用する場合は、壁に穴をあけないと装置間の空間に誤りが生じ、穴あけし直すことになります。

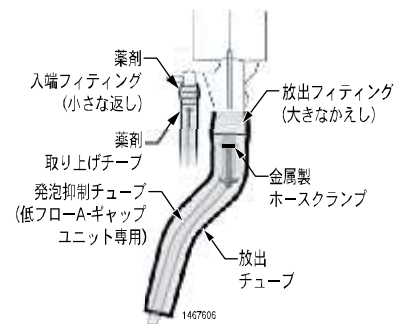
B. 後部プレートを壁に押し付け、穴を開ける箇所に記しを付けます。図の矢印を参照します。



3. チューブ接続

A. 低フローA

ギャップのユニットの場合：透明な発泡抑制チューブをベンチュリ底部から突き出しているプラスチック製の差し込み部に接続します。対角線サイドカッターを使い、チームの金属製クランプをつかみ、差込部にしっかり固定します。発泡抑制チューブは、水の流量と発泡抑制を低減させるので、低フロー R-ギャップと併用しません。



後部プレートの上で水平を保ち、ユニットが傾かないことを確認します。底部のドリル穴はキーホールの底部にあり、上部のドリル穴はキーホールの上部にあることに注意します。

- C. 壁に $\frac{1}{4}$ " (6 mm) の穴をドリルで開けます。コンクリート壁にはコンクリート用ネジを使います。
- D. 上部2本のキー穴ネジを固定します。
- E. 後部プレートをかけます。
- F. 底部キーホールネジを底部で固定し、後部プレートが持ち上がらないようにします。壁が平らでない場合は、ネジをしめすぎないようにすると、後部プレートが曲がりません。後部プレートが固定されると、すべてのサービスが可能になります。
- G. 水道を水流入端に接続
(しばしば、青色クリップを引き、BetaJetから水流入端フィッティングを抜き、ホースにねじ込んで固定するのが最も早い方法です)。
- H. 後部プレートにバルブ/ベンチュリアセンブリをかけます。このときベンチリタブの下でカチリと音がして固定されることを確認します。
- I. ウィッシュボーンをウィッシュボーンピボットに接続し直します。

B. バケツ充填のアプリケーションの場合：

大きな放出チューブを大きなかえしまで配管します。結束バンドを使い、放出チューブを大きなかえしに固定し、バケツのスプリングフックをチューブの他端に取り付け、バケツにかかるようにします。

C. 薬剤取り上げチューブを小さいかえしに接続し、結束バンドで固定します。薬剤と取り上げチューブを後部プレートの薬剤取り上げチューブノッチまで配管します。16:1 や1000:1

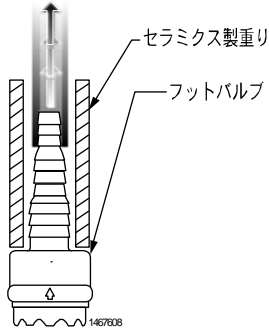
といった大きな希釈度が必要な場合は、ウルトラ希釈毛細管チューブを薬剤供給ラインにインストールする必要があることがあります。薬剤が濃い場合は必要ないことがあります。

D. 水道：園芸用ホースを水流入端に接続します。

水流入端をユニット側面に切り替えたい場合は、青色クリップを少し出すと、水流入端と水プラグを交換できます。水流入端フィッティングを回転させ、園芸ホースまたは銅管用アダプタフィッティングにねじ込んで固定します。水道の栓を開ける前に青色クリップが元の位置に押し込まれていることを確認します。

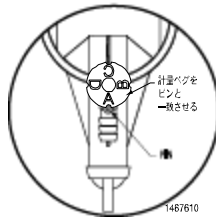
4. フットバルブ

セラミックス製の重りを薬剤取り上げチューブの末端に置いてからフットバルブを挿入します。フットバルブがないと、計量プラグが外された場合、充填物を失うのでフットバルブを追加することが重要です。



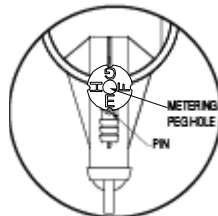
5. 充填

- 計量ペグを差し込み、図に示すようにピンを一致させます。



- 水道を開きます。
- ユニットにウィッシュボーンをのせ、両端をウィッシュボーンのピボットにつなげます。(このシート最初にあるユニット図を参照します。)
- ウィッシュボーンを押してユニットを作動させ、水を集めながら薬剤吸引ライを充填します。水は捨てます。ウィッシュボーンは手で直接触れずに、カバーの下で作動するようにデザインされていることに注意します。ウィッシュボーンは手で直接触れると位置が変わってしまいますが、カバーを付けたまま正常に作動します。

6. 希釈設定の選択



- A. 好ましい希釈度が得られる計量ペグを選択します。図に示すように、計量ペグをペグ穴に差し込み。ピンと文字を

一致させます。右図の例では、E 希釈設定が使用されています。

- B. 希釈比を計算し、以下の必要な条件を満足することを確認します：

- 計量/目盛りシリンダに薬剤を入れます。
- シリンダに入れた薬剤量を記録します。
- プロポーションを作動させます。このとき、1ガロン1/2リットルの
- ジャグ (高フロー) または16オンス/500 L のカップ (低フロー) を充填します。
- 水：薬剤の量を記録し、希釈度を計算します。
- 必要に応じて、異なる計量ペグ設定を使い、必要な希釈度を得

希釈度チャート

比率は参照用です。実際の希釈度は、水圧、薬剤粘性、薬剤の上に位置するディスペンサの高さに依存します。高希釈度を得るには、ウルトラ希釈キットをお求めください。

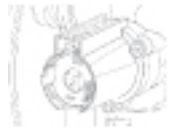
濃い製品を使用する場合は、より大口径の製品チューブを使用し、十分な量の製品が取り上げられるようにします。

低流量 BETAJET 希釈				
粘性	水	705 カップ*		
		5 カップ	17 カップ	17 カップ
A	3	3	4	39
B	3	3	4	37
C	4	4	5	37
D	8	7	9	36
E	9	9	11	39
F	12	13	17	46
G	15	16	22	56
H	17	19	27	63
I	20	22	31	72
J	25	29	43	91
K	37	45	73	147
L	47	58	100	207
M	64	89	153	327
N	93	128	260	504
O	170	280	747	1525
P	525	1313	4500	9384

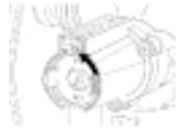
高流量 BETAJET 希釈				
粘性	水	705 カップ*		
		5 カップ	17 カップ	17 カップ
A	5	5	7	66
B	6	6	8	67
C	7	7	9	69
D	18	19	21	85
E	21	22	26	91
F	27	30	35	103
G	32	35	46	121
H	36	40	52	134
I	41	47	66	152
J	52	61	90	189
K	76	92	150	301
L	97	122	200	433
M	120	167	287	614
N	180	249	506	980
O	315	520	1384	2825

7.シンクアプリケーション遺著ジ 一時「保持」から「固定」作動へ の変更

シンクジ移転アプリケーションには、ユーザはカバーを1度
押して、カバーを
押したままの状態でもユニットを保つことが可能です。



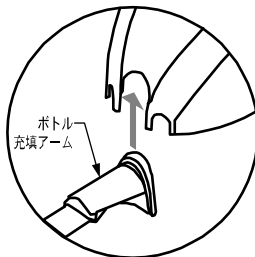
ラッチオフ位置



ラッチオン位置

8. ボトル充填アームの取り付け

図で示すように、低流量ユニットを使用する場合は、BetaJet
の底部カバーオープニングとボトル充填アームを一致させ、
押し込みます。



9. カバーの取り付け

カバーと取り付けます。このとき、位置を正しくし、後部プ
レートとの接続部のプラスチック製が破損しないように
気をつけます。低流量ユニットの場合は、ボトル充填チュ
ーブをボトル充填アームに押し込みます。

装置作動

前部カバーを押して薬剤を散布します。

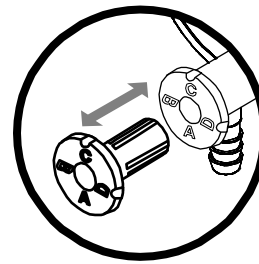
メンテナンス



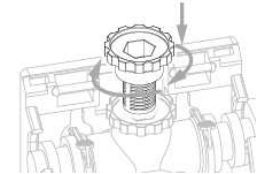
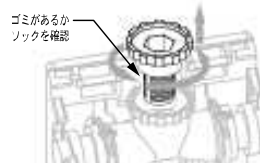
修理/メンテナンス前に手袋と安全ゴー
グルを着用し、水道を止めます。

定期的メンテナンスを行うと、システムの性能が改善
され、故障予防処置が少なくなります。特に、エアー
ギャップが必要な硬水地域あるいは水道に不純物が多
い古い建物や地域ではそうです。水道の質に応じて、
以下の手順を年1回行うことを推奨します：

- 希釈度を確認する。
- 薬剤の残留物が溝に溜まっていれば、計量ペグをふき取
るまたはリンスしてクリーニングします。



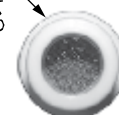
- フットバルブのスクリーンのつまりや破損をチェッ
クします。
- 水フィルタソックとエアーギャップノズルに
ゴミがないことを確認します。



ベンチュリを取り外し、エアーギャッ プノズルを確認

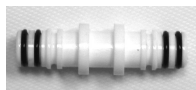
	1.ベンチ ュリタブ を押し込 む		4.ベンチ ュリを 取り外す
	2.ベンチ ュリを前 に出す		5.ノズルを 引き出す
	3.ベンチ ュリを左 に回して ゆるめる		ノズルのスク リーンが汚 れていれ ば、洗い流 す。スケール が付いて いればO- リングを外 し、30分間 酸漬けする 。

スケールを
チェックする



スペア部品

説明

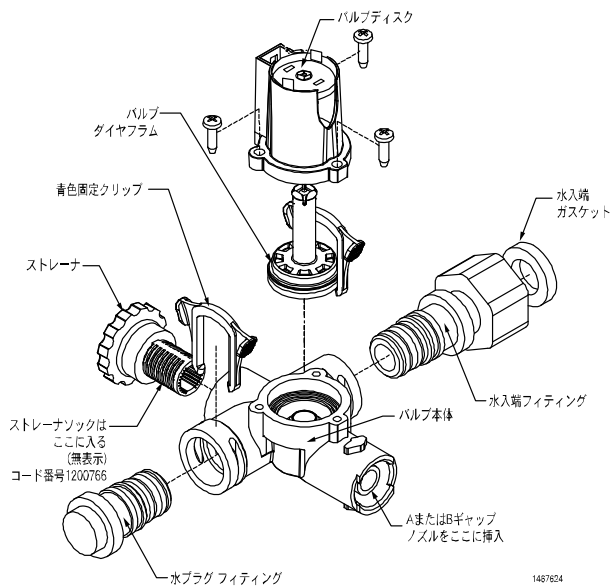
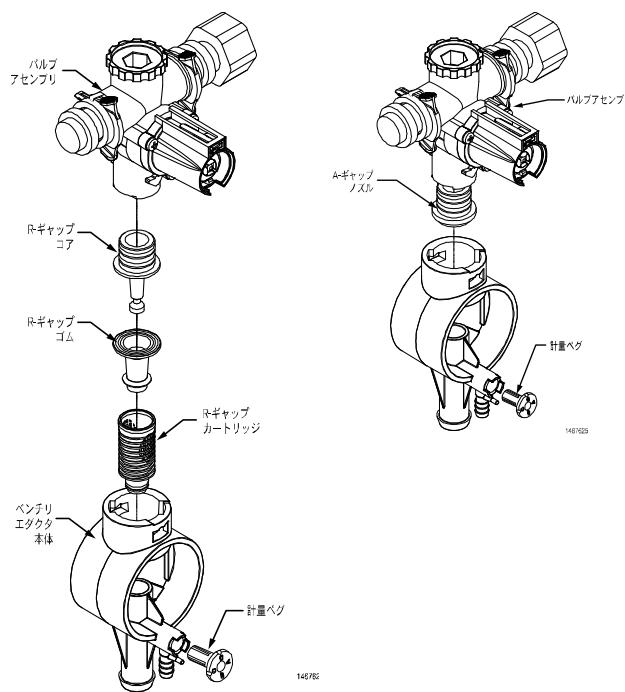


インターコネクト

バケツ充填フック	1202067
ホースフィッティング (ワッシャ付き)	1202027
後部プレート	1204098
計量ペグセット	1204153
カバー, BetaJet, グレー	1204102
ストレーナ ソック	1200766
カバー取り外し C-クリップ	1204103
ワイヤラック, 1 x 1 ガロン	1203104
ワイヤラック, 4 x 1	1203105

すべてのスペア部品に潤滑済みOリングが付いています。

部品番号



トラブルシュート

問題	原因	対策
1. 放出しない。	<ul style="list-style-type: none"> a. 水がない。 b. マグネチックバルブが作動していない。 c. 水圧過剰。 d. エダクタが詰まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 水道を開く。 b. バルブ部品キットをインストールする。 c. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は、レギュレータを設置する。 d. クリーニング (スケールとり) または交換する。
2. 濃縮液が出てこない。	<ul style="list-style-type: none"> a. フットバルブが詰まっている。 b. 計量ペグまたはエダクタにスケール蓄積している。 c. 水圧が低い。 d. 濃縮液容器が空。 e. 入端ホースのネジ山がエダクタにしっかり入っていない。 f. 水入端ストレーナが詰まっている。 g. 水入端ガスケットがない。 h. エダクタが仕様製品ではない。 i. 薬剤供給がY字フィティングを通っている。 j. 水温が高すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> a. クリーニングまたは交換する。 b. クリーニング (スケールとり) または交換する。 c. 水圧が最少要件を満足することを確認する。R-ギャップを使用している場合、水圧がA-ギャップには十分でもR-ギャップには不十分なことがあるので、R-ギャップをA-ギャップに交換してみる。 d. 濃縮液が一杯の容器に交換する。 e. 締める。ただし、締めすぎないこと。NPT フィティングを使用している場合は、テフロンのパイプテープを使う。 f. 水道を閉め、ストレーナを取り外し、ストレーナに入っている「メッシュ」をクリーニングまたは交換する。 g. 新しいガスケットに交換する。 h. 高フロー ノズル/R-ギャップの場合は、エダクタが白色であることを確認する。低フローの場合は、エダクタが灰色であることを確認する。 i. 2台のユニットがY字フィティングで接続されていると1台が他台からエアを吸引するため、別の薬剤供給チューブとフットバルブを各ユニットに準備する。 j. 水温が70~75°Cを超えると、ベンチュリ内が真空状態になると水が沸騰することがあり、ユニットが薬剤を引き出せなくなります。これが問題であると疑われる場合は水温を下げます。
3. 濃縮液が出すぎる。	<ul style="list-style-type: none"> a. 計量ペグのチャンネルが正しく選択されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 希釈度チャートをチェックし、低い希釈度に設定して再校正する。
4. 装置の作動を止められない。	<ul style="list-style-type: none"> a. 水バルブ部品が汚れている、または欠陥品である。 b. バルブディスクマグネットが完全に戻っていない。 c. キャビネットのカバーが引っかかっている。 d. 水圧過剰。 e. 装置がラッチ オン/オフに設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> a. バルブ部品キットをクリーニングまたは交換する。 b. バルブディスクマグネットが自由に動くことを確認する。 c. キャビネットのアライメントを取り直す。 d. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は、レギュレータを設置する。 e. バルブディスクを回して、この機能を停止させる。これには、「一時保持ボタンからロックオンボタンに変更する」セクションを参照すること。
5. 放出液が発泡しすぎる。	<ul style="list-style-type: none"> a. 取り上げチューブに空気漏れがある。 b. 内部放出発泡抑制チューブが正しく位置していない。(A-ギャップ装置のみ) c. 内部放出発泡抑制チューブの長さが十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> a. 流入端ホースのかえしをしめる。またはピックアップチューブを結束バンドやホースクランプでホースのかえし部分にしっかり固定する。 b. 発泡抑制内部放出チューブ (放出チューブ内部のチューブ) をインストールし直す。 c. 4mm バルクチューブを使い、チューブが数インチ長いことを確認する。

<p>6. Aギャップから液がほとぼしる, またはR-ギャップベントから水が放出する。</p>	<p>a. 放出チューブが制限されている。</p> <p>b. 水圧が高い。</p> <p>c. A-ギャップノズルが汚れている。</p> <p>d. ノズルがゆるい。</p> <p>e. R-ギャップのゴムに問題がある。</p> <p>f. 仕様外のエダクタが使用されている。</p>	<p>a. 放出チューブが折れていない, あるいは巻き込まれていない, 持ち上がっていないことを確認し, また散布開始時に放出チューブ内に溶液が残っていないことを確認する。</p> <p>b. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は, レギュレータを設置する。</p> <p>c. ノズルを交換する。</p> <p>d. ノズルをバルブ本体にしっかり押し込む。</p> <p>e. Rギャップを分解し, ゴムが破損していないかチェックする。破損していれば交換する。破損していなければ, ゴムをプラスチック製コーンに, そしてゴムにカートリッジをのせて, バルブアセンブリに挿入する。エダクタを最後に取り付ける。ゴムがプラスチック製コーンと外側カートリッジとの間でアライメントが取れなかったり, ねじれていたりすると漏れの原因になることに注意する。</p> <p>f. 高フロー ノズル/R-ギャップの場合は, エダクタが白色であることを確認する。低フローの場合は, エダクタは灰色であることを確認する。</p>
<p>7.カバーがディスプレイにフィットしない。</p>	<p>a. バルブ/ベンチュリアセンブリが正しくロックされていない。</p>	<p>a. 各バルブ/ベンチュリアセンブリを押して, ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーションが固定されると, タブは「カチリ」と聞こえる。</p>
<p>8. 水流入端フィティングから水が漏れる。</p>	<p>a. フィティングがバルブアセンブリに完全に挿入されていない。</p> <p>b. 水流入端と園芸用ホースが正しく接続されていない。</p> <p>c. 水流入端フィティングのネジ山が破損している。</p> <p>d. 水流入端フィティングにガスケットが入っていない。</p> <p>e. O-リングが正しく組み込まれていない。</p>	<p>a. フィティングがバルブアセンブリに完全に挿入されていることを確認し, 下図のように, 青色の固定クリップが所定位置にあることを確認する。</p> <div data-bbox="1008 1003 1328 1354" data-label="Image"> </div> <p>b. 水流入端フィティング/園芸用ホースのネジ山接続をしめる。ただし, ネジ山を壊さないようしめすぎないこと。園芸用ホースにNPTフィティングを使用している場合は, テフロンパイプテープを使う。</p> <p>c. フィティングを交換する。</p> <p>d. ガスケットを挿入する。</p> <p>e. O-リングが水流入端フィティングの最も内部にある2つの溝に位置することを確認する。位置しなければ, フィティングを交換する。第3の溝は赤色のクリップ用であり, 第2の溝のO-リングが移動したり, 第3の溝に入り込んだりしている場合は, ねじ回しを使いO-リングを第2の溝に入れ直す。</p>

9. 水ストレーナから水が漏れる。	<p>a. ストレーナが完全にねじ込まれていない。</p> <p>b. Oリングが外れている。</p> <p>c. バルブのネジ山がなくなっている。</p>	<p>a. ストレーナをネジ込む。</p> <p>b. ストレーナを取り外し、Oリングの位置を正しくさせ、ストレーナを取り付け直す。Oリングが破損している場合は、ストレーナアセンブリを交換する。</p> <p>c. バルブを交換する。</p>
10. 希釈が一貫していない	a. 水圧が変動している。	a. 圧力レギュレータまたはフローワッシャをインストールして、水圧の変動を抑える。
11. ウィッシュボーンが所定位置に正しく入らない。	<p>a. バルブ/ベンチュリアセンブリが所定位置に正しく固定されていない。</p> <p>b. 後部プレートが平坦でない壁にインストールされている。</p>	<p>a. 各バルブ/ベンチュリアセンブリを押して、ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーシヨナが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。</p> <p>b. ネジをゆるめ、後部プレートが曲がらないようにする。低部ネジに対しては、右のスロットの代わりに、薬剤放出フィッティング背部のキー穴を使用したことを確認する。</p>
12. キーを紛失した。	a. 小型のねじ回しを使う。	
13. ユニットを作動できない。	a. バルブ/ベンチュリアセンブリが所定位置に正しく固定されていない。	a. 各バルブ/ベンチュリアセンブリを押して、ベンチュリタブで固定されることを確認します。プロポーシヨナが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。ベンチリが固定されたら、ウィッシュボーンの上部はバルブディスクの上に位置し、ウィッシュボーンを押すと、バルブディスクをシャフトに容易に圧縮してユニットの作動をオン/オフさせる。

Americas, Asia and Japan
JohnsonDiversey Equipment
2841 Mission Street
Santa Cruz, CA 95060 U.S.A
(JD) Tel +1 - 831 - 457 - 5709
(Beta) Tel +1 800 - 858 - 2382
(Beta) Tel +1 831 - 423 - 4573
(JD Intl) Fax +1 - 831 - 471 - 3587
(Beta) Fax +1 800 - 221 - 8416
(Beta) Fax +1 831 - 423 - 4644

Europe, Middle East & Africa
JohnsonDiversey Equipment
4 Finway Dallow Road
Luton LU1 1TR
United Kingdom
Tel +44 - (0) 1582 - 702191
Fax +44 - (0) 1582 - 702173

Global Technical Customer Service
Europe, Middle East and Africa : (JD) Tel: +44 - (0) 1623 - 728010
(Beta) Tel: +1 - 630 - 513 - 9799
Tel: +1 - 262 - 631 - 4461
North America: +1 - 800 - 468 - 4893 (toll-free in USA)
Latin America: Tel: +1 - 541148428270
Asia Pacific: Tel: +1 86 21-50509900 x 2520
Japan: Tel: +1 090-6506-5140

Beta Technology is ISO 9001 Certified